**令和5年期（2023）南連協おとな部会＃4　議事メモ**

日　時：令和6（2024）年5月１（水）　13：00から15：00まで

場　所：南保健福祉センター　情報交換ルーム

出席者：「YELLOWS」横内さん、「のこのこ」大塚さん、「まるさき福祉会」中舘さん、土井さん、「アトリエ」磯部さん、and life 赤名さん、「南連協」坂本、村田

**＜論議結果＞　坂本より配布したレジメに沿って論議　（レジメ：添付）**

　　**１：R6年期のおとな部会の活動について**

　　　　　（「まるさき福祉会」さんが途中参加の為、当日は第三議題とした。）

　　　＊前回の任意団体設立の話について、坂本が小野先生に相談した内容を別紙レジメにそって

　　　　説明。

　　　　・地域福祉の発展の原則は、小さな合目的の集合からスタートすべし。

　　　　・その集合が大きくなったら分化する。

　　　　・自由度が高いインフォーマルな会からスタートし形成し、フォーマル団体化するかは

　　　　　2年ぐらい様子を見て判断。（坂本の”南連協”は10年かかっている。大きくなったので

今年からおとな部会、こども部会に分化した。

　　　　・南連協を相模原市全体に広げるつもりは無い。

　　　　・おとな部会の最近は経営者の議論が多いが、支援実務者と関心が随分と違う。

　　　　　取り残されるので永続性がなくなる。

　　　　・永続性の為に、市との協働事業として「放デイ合同説明会」をしているが、おとな部会で

　　　　　そのような協働事業（事業所紹介説明会（市との合同））を作れないかetc.？

　　　　・レジメの手書き図のシャボン玉の一つが南連協、中央区でも1つのシャボン玉があっても

　　　　　良い。但し、目的は別であっても良い。南連協は少ないながらも会費を取っている。意思確認になる。

　　　　・相模原市は地域福祉が発展しなかった歴史。緑区、中央区、南区それぞれの特徴にてらし

　　　　　て互いに分かる範囲の地域で密に集まる必要がある。

　　　　・南連協は、経営者の会ではなく、施設管理者、職員の集まりで、困りごとも相談できる

　　　　　まとまりとしてきた。（7年かかった）

　　　　・行政も時間がかかるので、まとまりが永らく続かないと進まない。

　　　　・前回の任意団体設立の話は、今後、別団体として連携をとるか、おとな部会の中で活動を

　　　　　温めていくか、経営者の別集合を作るか？

　　　　・前回の任意団体の提案は、ロータリークラブの様な組合的なものの方向で行く可能性も

ある。但し、専従者がいないと無理。

　　　　・情報が不十分で苦労しているソーシャルワーカーや利用者さんがいるので、

情報を集約する体制をつる可能性はないか？

**２：事務連絡**

　 **A）総会開催日予定　6月7日**

　　前半をR5（2023年期）の結果・振り返りとR6（2024年期）の事業計画。

　　後半をこども部会とし、2024の放デイ合同説明会の計画と募集要領を説明・協議。

　　後半には南連協の会員外の南区の放デイ事業所と児童発達支援事業所にも声をかける。

 **B)　研修について**

　　今年は坂本の体調から、年期末に集中してしまった。毎回10～15名の参加。

　　今年から、講座内容の動画をHPにUPしていつでもご覧いただける様にした。

　　参加しなくてもHPが見れるのでそれでよいという方もいらっしゃったのではと想像。

　　（アンケートを取ってみたい）

　　いずれにしても機会が増えているので、リアルが減っても構わないと思う。ただし、

　　『人権尊重・虐待防止』研修は、南連協の根幹なので受講者が減っても続けたい。

**３：リファー＆困りごとその他情報交換**

* **報酬改定**

市もまだバタバタしていて落ち着かない。しばらく様子見。

* **相談事業について**

生活介護に通われている方の事例で、相談員の方がほとんど機能しておらず、生活介護の

支援員がいろいろな相談にのっている。市の教育では、相談支援を中心に計画をたてて

それを受けて各事業所で『個別支援計画』を作るながれで指導されているが、全くそうなって

いない。

＝＞現在は相談支援事業が機能しない状態が多い。一人を一年間担当しても2～3万円で

　　モニターリングやいろいろな仲介をするのでは事業として成り立たないのが実情。

　　実態は、使命感やボランティア的に一部の方が頑張っているだけ。

　　『個別支援計画』は利用者本人がいる事業所で作るのが自然。南連協ではこれを

　　推奨しよう！　今年の報酬改定でも、セルフプランの方の相談にのると、一件5000円に

　　なる。モニターリングもなく、ちょっと相談にのるだけで良いことになっている。

各事業所で相談にのる方が、事業経営的にも、支援の流れ的にも良い。ただ、

いくつかの事業所にまたがって苦労するなら、ちゃんとした相談支援専門員の人と

契約するのが良い。

今後、相談支援事業所は減っていくのではないか？

南連協に加盟していれば、今回の様に、相談にものれるので、うまく利用した方が良い。

* **支援の具体事例の相談（大塚さん）**

・利用者の方の「繰り返し確認」がどんどんエスカレートしてくるがどうするか？

　――　5月連休明けで安定した時にどうするか改めて考えると良い。

　――　こだわりには”ブーム”がある。――　固執：やめたいがやめられない。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 こだわり：放置すれば良いケースが多い。

　――　何故かな？と考えるのが良い。考えて記録に残し、ご家族と共有し、対応し

検証する。（PDCAを回す）。支援員の差、対応の仕方の差、季節の差　etc.

　　　　　＜強度行動障害の委託研修＞は一般的すぎる。減算対象なので、一応対応せざるを

えないが、他の＜事例検討会＞の方が良い。

例えば、早稲田大学の「自閉症カンファレンス（8月頃二日間）」

　（多くの事例検討会（小会場）、TEACCH（ノースカロライナから来訪）講座（大会場）等。）

　　　　　　――　**＜こういう相談を南連協の中で共有できると良い＞**

* 部会員情報

・赤名さんのグループホームの空き状況

　26ルームある中、2023末ごろから埋まって、今23ルーム埋まっている。

　区分認定３以下が多い（max 4）

・グループホーム増えてきているが、区分４以上の対象のものが乏しく探している人が多い。

・横内さんのグループホーム（レッドスナッパー）は事業拡大する。（４－＞７）

　時期が来たら南連協内で希望者を募ることを考える（事務局）。

以上（村田　記）